

**令和 5 年度カーボンニュートラルに向けた
自動車部品サプライヤー事業転換支援事業
（地域支援拠点運営事業）
～次世代自動車チャレンジ支援事業～
報告書**

令和 6 年 3 月 29 日

公益財団法人いわて産業振興センター

目次

1. 事業目的・事業概要
 - (1) 事業目的
 - (2) 事業概要
 - (3) 実施体制
 - (4) コーディネーターの設置
2. 実施内容
 - 【1】サプライヤーハンズオン支援事業
 - (1) 相談窓口の運営
 - (2) 実地研修・セミナー等の実施
 - (3) 専門家派遣
 - (4) その他
 - 【2】サプライヤー参入促進支援事業
 - (1) ニーズ発信型 参入・事業転換促進支援
 - (2) シーズ育成型 参入・事業転換促進支援
3. 令和5年度の活動総括
 - (1) 令和5年度の実践における課題
 - (2) 令和6年度の活動計画
 - (3) 総括

1. 事業目的・事業概要

(1) 事業目的

世界全体でカーボンニュートラルを実現するための大きな動きがある中、東北地域において地域を牽引するリーディング産業である自動車産業界でも、急速なカーボンニュートラル（以後、「C N」という。）、特に電動化に向けた急速な変革を求められており、これに伴い、域内の自動車部品サプライヤー（以下、「域内サプライヤー」という。）にも様々な対応が必要である。

岩手拠点における、令和4年度のサプライヤー支援拠点事業の活動の結果、①域内自動車部品サプライヤーがC N／電動化による自社への影響を知る機会が少ない、②域内サプライヤー・サプライヤー候補企業が電動車部品参入可能性を模索する機会がない、などの課題が浮き彫りになった。

そのため、令和5年度は、上記課題に対応し、域内サプライヤーの電動化に向けた取組の推進に向け、川下企業のニーズの把握に努めるとともに、電動車に搭載される部品・ユニットを知る機会と、これらを要素技術に分解することで自社技術と提案力の向上、さらには、域内サプライヤーが対応領域拡大への挑戦心を高められるような支援、また電動化、カーボンニュートラルに向けた取組等を継続的に支援することを目的として事業を実施した。

岩手拠点では、より実務的な支援対応を目指すため、「令和5年度活動計画」※を短期・中期・長期の3段階で設定し、中堅・中小サプライヤーの各段階で適切な支援を実施することで、C N／電動化に向けた事業再構築を後押しすることとした。

短期の活動では、窓口相談や専門家派遣、セミナー等を通じて、C Nや電動化による自社への影響の理解と、課題の整理とその解決に向けた戦略を策定できる企業となるべく支援を行った。中期の活動では、部品やユニットを学ぶ実地研修等を通じて、企業が保有する基礎技術の高度化やユニット受注、電動車関連試作への挑戦を支援した。長期の活動では、ニーズ・シーズ発信型の取組等を通じて、電動車や次世代自動車ビジネスへの参入や電動車部品の量産等への挑戦を支援した。

※「令和5年度活動計画」は次ページを参照

1. 事業目的・事業概要

令和5年度活動計画

	サプライヤー の状況	サプライヤーの 目指す姿	拠点の活動方針	令和4年度活動実績	令和5年度活動計画
短期	【ステージ0】 現状維持（CN/電動化の影響を理解していない、何をしたいかわからない）	・CN/電動化による自社への影響を理解し、変革の必要性を認識 （他分野から自動車産業への参入に挑戦）	・CN/電動化による経営環境変化への危機意識の共有 ・拠点の活動情報を提供 ・支援制度の活用促進	・支援企業の発掘 ・窓口相談、専門家派遣 ・セミナー（CN）2回 ・実地研修（業界動向）2回 ・セミナー（部品学習）2回 ・地域支援ネットワークの設置	・支援企業の発掘、診断 ・窓口相談、専門家派遣 ・セミナー（CN） ・セミナー（業界動向） ・地域支援ネットワークの運営
	【ステージ1】 経営戦略の策定	・自社の課題を整理し、課題解決に向けた戦略を策定	・戦略策定を支援		
中期	【ステージ2】 戦略実現に向けた基盤構築	・基礎技術の高度化 ・ユニット受注への挑戦 ・新たな製品、技術の開発 ・電動車関連試作への挑戦	・DX支援事業との連携 ・ユニット受注を目指した体制構築支援 ・開発機能を産官学連携や企業間連携で支援（コア企業の発掘） ・支援制度の活用促進	・窓口相談、専門家派遣 ・ニーズ発信型支援 ・シーズ育成型支援の準備	・支援企業の発掘、診断 ・窓口相談、専門家派遣 ・実地研修（部品学習） ・ニーズ発信型支援 ・シーズ育成型支援
長期	【ステージ3】 提案力の強化	・電動車関連ビジネスへの参入挑戦 ・次世代自動車関連ビジネスへ参入挑戦	・ターゲットとする市場の拡大支援		・窓口相談、専門家派遣 ・ニーズ発信型支援 ・シーズ育成型支援
	【ステージ4】 社会実装	・電動車関連ビジネスへの参入、電動車部品の量産 ・次世代自動車関連ビジネスへ参入	・支援制度の活用促進		

1. 事業目的・事業概要

(2) 事業概要

電動車部品製造への新規参入や事業転換に関する課題解決を図るため、サプライヤーハンズオン支援として、「相談窓口・セミナー・専門家派遣事業」を運営した。また、新規参入及び事業転換を促進するため、サプライヤー参入促進支援として、川下企業とサプライヤーとの「ニーズ発信マッチング会」と、研究機関とサプライヤーによる「シーズ発信会」を実施した。

1 サプライヤーハンズオン支援事業 【相談窓口設置】

サプライヤー相談窓口を設置・運営し、電動車部品製造への参入に係る技術課題や経営課題等の相談を受け付け、コーディネーターによる相談対応や専門家派遣への誘導を行った。また、参入促進のためのセミナー・実地研修により参入意欲の醸成に取り組んだ。

(1) 相談窓口

域内サプライヤーとサプライヤー候補企業（これまで自動車部品製造を行ったことのない企業）が電動車部品製造の参入にあたって、抱える課題の解決を支援するため、コーディネーター（以下「ＣＯ」という）等が相談対応にあたった。

○相談受付件数 31件 ○個別相談対応件数 30件

○相談から課題解決までのスキーム

相談受付

カルテ作成

課題の整理

支援計画策定
・提案

専門家派遣

フォローアップ



(2) セミナー・実地研修

前年度の参加者アンケートでの要望・意見等に基づき、セミナー・実地研修（以下「セミナー等」という）を開催した。
なお、開催後はWebフォーム等による簡易なアンケート調査を実施し、セミナー等のフォローアップを行った。

○実施したセミナー等 ※詳細は2.【1】(2) 実地研修・セミナー等の実施を参照

① カーボンニュートラルセミナー : 3回（第1回 2023/6/29 第2回 2023/11/27 第3回 2024/2/7）

② 業界動向セミナー : 1回（2023/12/14）

③ 実地研修 : 3回（第1回 2022/11/14 第2回 2024/12/14回 第3回 2023/3/1）



(3) 専門家派遣支援

相談窓口で策定した支援計画にもとづいて、ＣＯが専門家派遣等事務局と連携して適切な支援人材を選定し、自拠点外の専門家（全国の民間企業、大学、公設試）や自拠点内の専門家を域内サプライヤーとサプライヤー候補企業に派遣し、個別の課題解決に向けたハンズオン支援を行った。

○域内サプライヤーのニーズと専門家による支援 10社22件 （Tier1のニーズ把握、電動車部品製造参入の戦略構築、ＣＮロードマップ策定 等）

○専門家による支援例

部品参入

参入部品の
模索

導入技術の
明確化

メーカーとの
マッチング

新規取引成立



1. 事業目的・事業概要

(2) 事業概要

電動車部品製造への新規参入や事業転換に関する課題解決を図るため、サプライヤーハンズオン支援として、「相談窓口・セミナー・専門家派遣事業」を運営した。また、新規参入及び事業転換を促進するため、サプライヤー参入促進として、川下企業とサプライヤーとの「ニーズ発信マッチング会」と、研究機関とサプライヤーによる「シーズ育成プレゼンテーション会」を実施した。

2 サプライヤー参入促進支援事業

大手サプライヤーが必要とする技術を発信するニーズ発信会によるマッチング支援、大学等の研究開発シーズと県内企業の連携・事業化に向けた研究会活動支援を実施することで電動車部品製造への参入促進に取り組んだ。

(1) ニーズ発信型 参入・事業転換促進支援

大手サプライヤーが必要とする技術を発信する会（ニーズ発信会）により、域内サプライヤーとのマッチングを行った。

○フォローアップ体制

- ・地域サプライヤーの経営に精通し、大手自動車メーカーやメガサプライヤーの設計、開発等担当者との繋がりのあるCOを配置した。
- ・COから企画案や助言を受け、大手サプライヤーと域内サプライヤーの連携した技術開発等の取組を促した。

○ニーズ発信マッチング会 1回（大手サプライヤー2社） 参加企業 のべ11社

○技術等ニーズの
マッチングイメージ

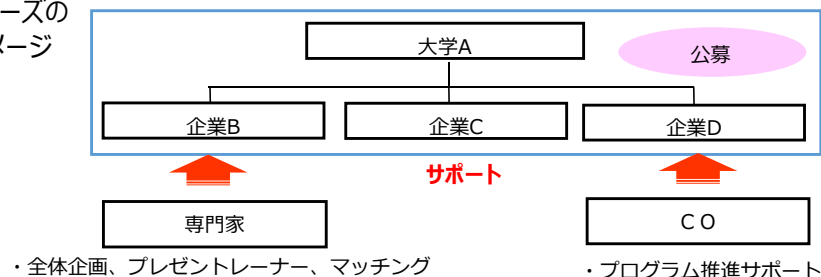


(2) シーズ育成型 参入・事業転換促進支援

大学等の研究開発シーズから、電動車・CASE・MaaS・CN等に貢献可能な技術を選定した。共同して事業化に取り組もうとするサプライヤーを募り、シーズ発信会を開催した。

○シーズ育成プレゼンテーション会 1回 1大学2シーズ 参加企業 1社

○技術等シーズの
マッチングイメージ



車載部品メーカー・投資家等に
プレゼンテーション！

展示会・交流会
による情報発信！

競争的研究開発
資金の獲得

1. 事業目的・事業概要

(3) 実施体制

支援対象企業群

**域内サプライヤー／
サプライヤー候補企業**
協議会 会員企業（377社）

サプライヤー候補企業
協議会 非会員企業

支援

- ・伴走支援
- ・専門家派遣
- ・情報発信

地域支援拠点

（いわて産業振興センターものづくり振興部）

責任者 部長	富手 壮一
管理者 室長	田澤 潤
担当者 主任主査	高木 章浩
担当者 主事	鈴木 俊克
チーフコーディネーター	小室 健一（㈱アイシンＯＢ、㈱SAKAHOKO代表）
コーディネーター	吉田 強（㈱アイシンＯＢ、アイシン東北㈱元代表）
コーディネーター	四十川 千秋（アルプス・アルパイン㈱ＯＢ）
コーディネーター	村上 淳（いわて産業振興センター ＯＢ）
地域拠点専門家	梅山 光広（トヨタ自動車㈱ＯＢ、石巻専修大学 機械工学科教授）
地域拠点専門家	寺倉 修（㈱デンソーＯＢ、㈱ワールドテック代表）
地域拠点専門家	澤瀬 薫（三菱自動車工業㈱開発フェロー）
地域拠点専門家	田中 武憲（名城大学 経営学部教授）
地域拠点専門家	窪小谷 良一（㈱デンソーＯＢ、㈱デンソー岩手 元代表）
地域拠点専門家	板倉 正人（㈱アイシンＯＢ、アイシン東北㈱元副社長）
他 職員 3名	

※地域拠点専門家の記載は登録順

地域支援 ネットワーク

いわて自動車関連産業集積 促進協議会

（岩手県商工労働観光部ものづくり自動車
産業振興室）

完成車メーカー、大手サプライヤー、地域サプライヤー、行政、中小企業基盤整備機構 東北本部、支援機関、高等教育機関、公設試験研究機関等

東北経済産業局

地域経済部 製造産業・情報政策課
（モビリティ担当）

1. 事業目的・事業概要

(4) コーディネーターの設置

相談窓口対応、専門的相談対応、セミナー等の企画立案、専門家派遣の選定及び総合調整等の業務にあたるコーディネーター（以降、COという。）を設置した。チーフCO、COは、地域拠点専門家も兼任した。

コーディネーターの紹介

チーフコーディネーター
小室 健一



コーディネーター
吉田 強



コーディネーター
四十川 千秋



- ・アイシン精機(株)(現(株)アイシン)OB
(電子制御・経営企画等担当)
- ・トヨタ自動車(株)EV事業企画室に
出向し電気自動車開発を担当

- ・アイシン精機(株) (現(株)アイシン) OB
(走行技術、電子技術等担当)
- ・アイシン東北(株) 元社長

- ・アルプス電気(株) (現アルプス・
アルパイン(株)) OB
- ・域内の企業や研究開発シーズ
に精通

2. 実施内容

【1】サプライヤーハンズオン支援事業

（1）相談窓口の運営

〈実施概要〉

域内サプライヤーが電動車部品製造等の新分野に挑戦することや、サプライヤー候補企業が新たに電動車部品を含む自動車産業へ参入する、といった「攻めの業態転換・事業再構築」を進めるにあたって抱える課題の解決を支援するため、いわて産業振興センター内に相談窓口を設置し、相談の対応にあたった。

地域支援拠点にC Oを配置し、相談対応を行ったほか、セミナーや企業訪問などを通じて支援対象企業の掘り起こしを行った。

また、当該相談窓口機能について、拠点のホームページと広報誌を通じてP Rを行ったほか、「いわて自動車関連産業集積促進協議会」、関係機関等と連携し、案内を行った。

▼拠点ホームページ

次世代自動車チャレンジ支援事業

岩手地域支援拠点

いわて産業振興センターでは、令和5年度経済産業省事業「[カーボンニュートルに向けた自動車部品サプライヤー事業転換支援事業](#)」の採択を受け、「地域支援拠点」を開設しております。
岩手県を中心とする域内サプライヤー・サプライヤー候補企業（自動車部品製造に挑戦を希望する企業）の電動車部品製造への参入やカーボンニュートルの取組についてのチャレンジを支援します！
・[リーフレット（全国版）.pdf](#)
・[リーフレット（岩手版）.pdf](#)

1.新着情報

2024年1月18日 [経済産業省「ミカタプロジェクトポータルサイト」オープン](#)
2024年2月13日 [第2回実地研修（2024年3月1日15:00～）参加者募集中](#)

2.支援対象企業

・岩手県内の中堅・中小サプライヤー
・自動車部品製造に挑戦を希望する企業
※資本金10億円未満または従業員300人以下の企業が支援対象となります

3.支援内容

①相談窓口

・自動車の電動化に向けた相談に対して、コーディネーター（大手部品メーカーOB）が会社の状況に沿った課題整理や戦略策定、技術開発等の各種相談に応じます。
・電話相談の受付は月曜日から金曜日の9時30分から16時です（※祝日等除く）。相談は無料です。
・まずは電話（019-631-3825）かe-mail（iwatemobi@iwatemobi.meti.go.jp）でお問合せください。日程調整のうえ会社にご訪問し、じっくりと話を伺います。

▼いわて産業振興センター広報誌 2023年8・9月号 6ページ

カーボンニュートラルセミナーを開催しました

6月29日（木）に盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGにおいて、「カーボンニュートルに向けた自動車部品サプライヤー事業展開支援事業（経済産業省）」の一環として「第1回カーボンニュートラルセミナー」を開催しました。

セミナーではエネルギーアナリストの前田雄大氏から「カーボンニュートルに向けた自動車産業のロードマップ」、自動車メーカーOBの荒木克己氏から「自動車部品関連技術の動向」についてご講演いただきました。カーボンニュートルへ取り組むことの必要性や優位性についてお話しいただき、参加者からは「電動化に向けた自動車部品の技術や今後の流れを知ることができた」等のご意見をいただきました。

本事業では、今後、実地研修、業界セミナー等を開催するほか、随時窓口相談、専門家派遣を行っていますので、お気軽にお問い合わせください。

■お問い合わせ

産学連携室 TEL:019-631-3825

9

実施内容

【1】サプライヤーハンズオン支援事業

（1）相談窓口の運営

〈相談受付日時〉

受付は、以下のとおり対応した。

- ・月曜日から金曜日、祝休日は年末年始・お盆を除きカレンダーどおり。
- ・9時30分から16時（12時から13時は休憩時間）。

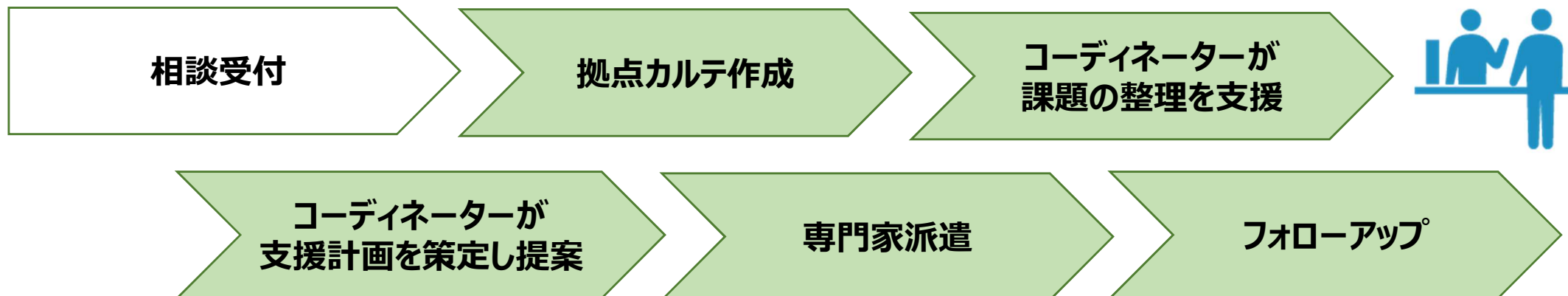
〈相談から課題解決（専門家派遣等）までのスキーム〉

ＣＯが相談企業に対し、面談・電話等によりヒアリングを行い、現状分析および課題の抽出、自社技術の強み、今後の方向性をより具体的に整理し、伴走型で支援を行った。

専門家派遣においては、専門家派遣等事務局と連携し、取組内容に適切な人材をＣＯが選定した。

派遣後は、専門家派遣等事務局のアンケートフォームで、専門家派遣の満足度や要望を測定し、支援方法へのフィードバックを行うことにより支援の持続的品質向上に取り組んだ。

○相談から課題解決までのスキーム



2. 実施内容

【1】サプライヤーハンズオン支援事業

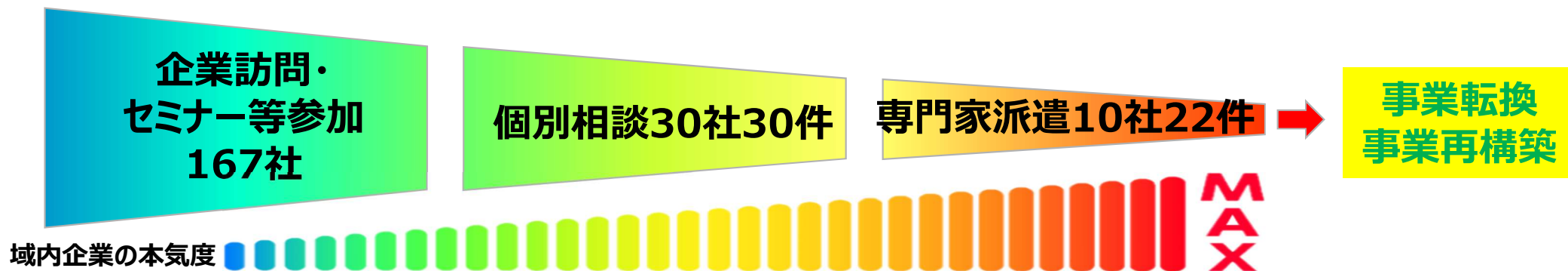
（1）相談窓口の運営

<運営総括>

- ・31件（31社）の相談受付と30件（30社）の個別相談対応から、C N／電動化対応に関する域内サプライヤーの実態を把握した。
- ・相談内容は、大別して3分類。「C N／電動化に関する情報収集」「電動化をビジネスチャンスと捉えた取引拡大」「各社固有の課題」。
- 「C N／電動化に関する情報収集」に対しては、COが情報提供を行うとともにセミナー等に誘導した。
- 「電動化をビジネスチャンスと捉えた取引拡大」については、COによる助言を行いながら、専門家派遣へとつなげる活動を行った。
- 「各社固有の課題」については、COによる助言を行い、専門家派遣へとつなげた。

（詳細）

- ・相談窓口利用の多数は、セミナー等への参加や企業訪問ヒアリングがきっかけとなっており、企業からの積極的な相談窓口利用は10件であった。
- ・事業再構築・事業転換に向けて、現時点（今年度）で行動にうつす域内サプライヤーは限定的であった。



<令和6年度へ向けて>

- ・目標の10社支援を達成できたのは、コーディネーターの増員や支援企業の選定と動機付け、ヒアリング等が有効に機能した支援となった結果と考える。一方で派遣回数が1回で完了する支援も見られ、これは新規参入や事業転換・再構築にはつながりづらいテーマであることから、令和6年度は、企業の戦略策定や競争的資金の獲得へと発展するテーマの発掘にも取り組む必要がある。

【1】サプライヤーハンズオン支援事業

(2) 実地研修・セミナー等の実施

電動化に向けた意識変革・課題等の解決の契機として、域内サプライヤーおよびサプライヤー候補企業の経営者や実務担当者向けに、今年度は、以下の通り、セミナー4回、実地研修3回を実施した。セミナーの実施に際しては、いわて産業振興センターホームページを通じてPRを行ったほか、「いわて自動車関連産業集積促進協議会」や関係機関等と連携し、広く開催案内を行った。

セミナー開催後には、書面とオンラインフォームでアンケート調査を実施し、満足度や事業への要望などの把握に努めた。



<実施したセミナー・実地研修一覧>

種別	名称	開催日時	参加企業数
セミナー（全4回）	カーボンニュートラルセミナー（3回）	①2023/6/29(木) ②2023/11/27(月) ③2024/2/7(水)	①6社 ②22社 ③9社
	業界動向セミナー 「世界自動車産業の電動化競争の現状と電動化基幹部品のサプライチェーン」	2023/12/14(木)	11社
実地研修（全3回）	実地研修「IATF16949規格 基礎研修」	2023/11/14(火)	18社
	第1回実地研修 「キラリと光る自社の技術で拓く次世代自動車部品製造」	2023/12/14(木)	9社
	第2回実地研修 「SDV時代に求められる新たな技術革新と価値創造」	2024/3/1(金)	10社

※各セミナー等の詳細は次ページ以降参照

第 1 回カーボンニュートラルセミナー

<開催目的>

カーボンニュートラルに関する様々な国内外のルールやアクション等についての理解を促進するとともに、域内サプライヤーのCASE・電動化等への取組に向けた意識啓発を図ることを目的に「第1回カーボンニュートラルセミナー」を実施した。

<実施内容>

日時・場所	講師	参加 企業数	プログラム
2023/6/29(木) セミナー：15:00～17:30 情報交換会：17:30～20:00 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング	①前田 雄大 氏 (株)みなかみSOUL 代表取締役、 元外務省職員 ②荒木 克己 氏 (株)ティムネット パートナー、中部 拠点専門家、元トヨタ自動車(株) グローバル生産センター長 ※(株)ティムネット トヨタ自動車系企業の出身 者を中心に約30人のパー トナーで構成されたコンサル ティング会社	6 社	1 開会 2 挨拶 3 講演①「カーボンニュートラル時代を生き抜く自動車産業の ロードマップとは」 前田 雄大 氏 講演②「カーボンニュートラルに向けた自動車部品関連技術の 動向」 荒木 克己 氏 情報提供「アクア分解展示を活用した実地研修の実施」 小室 健一 チーフCO 4 閉会

▼開催案内

令和5年度 経済産業省 カーボンニュートラルに向けた自動車部品サプライヤー事業転換支援事業

第1回カーボンニュートラルセミナー

参加無料

R5.6.29(木)

15:00-17:30

ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING 4階
メトロポリタンホール東（盛岡市盛岡駅前北通2-27）

近年、自動車部品製造企業はカーボンニュートラルや電動車部品製造への挑戦など、車両の変化に伴う事業転換に迫られています。いわて産業振興センターでは経済産業省の事業を活用し、県内企業をサポートするための支援拠点を令和4年7月に開設しました。
今回のセミナーでは、関みなかみSOULの前田雄大氏にカーボンニュートラル時代における自動車産業のロードマップについてお話をいたくとともに、関ティムネットの荒木克己氏から自動車部品関連技術の動向をお話いただきます。

プログラム

申込方法は裏面をご確認ください

- 講演1 「カーボンニュートラル時代を生き抜く自動車産業のロードマップとは」
株式会社みなかみSOUL 代表取締役 前田 雄大 氏
- 講演2 「カーボンニュートラルに向けた自動車部品関連技術の動向」
株式会社ティムネット パートナー 荒木 克己 氏
- 情報提供 「HV車分解展示を活用した実地研修の実施」
公益財団法人いわて産業振興センター チーフコーディネーター 小室 健一 氏

セミナー終了後、情報交換会を開催いたします。

情報交換会

講師との名刺交換・懇談
大歓迎！

時間：17:30～20:00
会場：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 11階 ギャラクシー
会費：6,500円

第2回カーボンニュートラルセミナー

「オール岩手のカーボンニュートラルで自動車・ものづくり産業の競争力向上へ！」

＜開催目的＞

カーボンニュートラルに関する様々な国内外のルールやアクション等についての理解を促進するとともに、域内サプライヤーのCASE・電動化等への取組に向けた意識啓発を図ることを目的に「第2回カーボンニュートラルセミナー」を実施した。

現地参加とオンデマンド参加のハイブリッド方式で開催。

＜実施内容＞

▼開催案内

令和5年度 経済産業省
カーボンニュートラルに向けた自動車部品サプライヤー事業転換支援事業

第2回 カーボンニュートラルセミナー

**オール岩手のカーボンニュートラルで
自動車・ものづくり産業の競争力向上へ！**

自動車電動化に伴う事業への影響、部品等製造時の使用電力の削減、高騰する電気料金による製造コスト増への対応、CO₂排出量の把握など、自動車等の部品等を製造する際の課題をお持ちの企業様は、ぜひご参加ください。

日時：令和5年11月27日（月）
13:30～15:00

場所：ホテルシティプラザ北上
3階 薫風の間
（岩手県北上市川岸1-14-1）

定員：40名（先着順）
（オンデマンド配信あり）

参加無料

プログラム

- 開会
- 挨拶 公益財団法人いわて産業振興センター
理事長 大友 宏司
- 講演 「自動車産業のカーボンニュートラルへの取組」
トヨタ自動車東日本株式会社
CN推進室 チーフ・スタッフ
北 條 佑 治 氏
- 情報提供 「カーボンニュートラル・DX・GXなどの各種支援メニュー紹介」
公益財団法人いわて産業振興センター
ものづくり振興部 産学連携室長 田澤 潤
- 閉会

主催：公益財団法人いわて産業振興センター
後援：いわて自動車関連産業集積促進協議会（岩手県）
申込方法は裏面参照

日時・場所	講師	参加 企業数	プログラム
2023/11/27(月) 13:30～15:00 ホテルシティプラザ北上 (オンデマンド配信あり)	北條 佑治 氏 トヨタ自動車東日本(株) CN推進室 チーフ・スタッフ	22社	1 開会 2 挨拶 3 講演「自動車産業のカーボンニュートラルへの取組」 北條 佑治 氏 情報提供「カーボンニュートラル・DX・GXなどの各種 支援メニュー紹介」 (公財)いわて産業振興センター ものづくり振興部 産学連携室長 田澤 潤 4 閉会

第3回カーボンニュートラルセミナー（ワークショップ形式） 「工場のCNに向けた確実なステップアップ活動」

＜開催目的＞

カーボンニュートラルに関する様々な国内外のルールやアクション等についての理解を促進するとともに、域内サプライヤーのCASE・電動化等への取組に向けた意識啓発を図ることを目的に「第3回カーボンニュートラルセミナー」を実施した。

現地参加とオンデマンド参加のハイブリッド方式で開催。

＜実施内容＞

日時・場所	講師	参加企業数	プログラム
2024/2/27(水) 13:30～15:50 いわて産業振興センター (オンデマンド配信あり)	当麻 満男 氏 (株)ティムネット パートナー、名城大学非常勤講師、中部拠点専門家、元(株)豊田自動織機 コンプレッサ事業部 製造第一部部長 ※(株)ティムネット トヨタ自動車系企業の出身者を中心に約30人のパートナーで構成されたコンサルティング会社	9社	1 開会 2 挨拶 3 講演「工場のCNに向けた確実なステップアップ活動」 当麻 満男 氏 4 閉会

▼開催案内

令和5年度 経済産業省 カーボンニュートラルに向けた自動車部品サプライヤー事業転換支援事業
＜第3回 カーボンニュートラルセミナー（ワークショップ）＞

工場のCNに向けた 確実なステップアップ活動

開催趣旨
世界的な脱炭素化（カーボンニュートラル）の動きが加速し、サプライチェーン全体における温室効果ガス排出量の削減が求められています。一方、脱炭素（CO2削減）の取組はエネルギーコストの削減となり、企業競争力の強化につながります。
本セミナーでは、ものづくり企業における省エネ活動の進め方や自動車部品製造企業の省エネ改善事例を紹介するとともに、ディスカッションや質疑応答を行います。

日時：令和6年2月7日（水）13:30～15:50
場所：いわて産業振興センター 2階 会議室
（岩手県盛岡市北飯岡2-4-26）

参加形式：現地参加、
オンデマンド参加
（動画配信）

参加料無料
効果的な省エネ活動の進め方
設備投資なしの省エネ活動の方法
具体的な省エネ改善事例
・・・など脱炭素化に関する最新の
情報を知りたい企業様はぜひご
参加ください。

プログラム
13:10 受付開始
13:30 開会、セミナー開始
15:30 セミナー終了、質疑応答
15:40 事務連絡、閉会

講師
株式会社ティムネット パートナー 当麻 満男 氏
1975年：株式会社豊田自動織機 入社
2011年：同社 コンプレッサ事業部 製造第一部部長
2017年：株式会社アルテックス 取締役社長
2021年：名城大学非常勤講師（現職）
※株式会社ティムネット（愛知県）
豊富な経営経験・実践経験を持つメンバーが、中小企業経営者様と想いを持ち共有しながら経営課題の解決を目指すコンサルティング企業。（<https://www.tim-net.co.jp/>）
主催：公益財団法人いわて産業振興センター 後援：いわて自動車関連産業集積促進協議会



業界動向セミナー 「世界自動車産業の電動化競争の現状と電動化基幹部品のサプライチェーン」

<開催目的>

域内サプライヤーに対して、電動化への対応を進めている国内外自動車メーカーの戦略等を学ぶ機会を提供し、域内サプライヤーにおける電動車基幹部品等への新規参入や技術開発への動機づけを図ることを目的に「業界動向セミナー」を実施した。

現地参加とオンデマンド配信のハイブリッド方式で開催。

<実施内容>

日時・場所	講師	参加企業数	プログラム
2023/12/14(木) 13:00～14:20 北上市産業支援センター (オンデマンド配信あり)	東 尚史 氏 株式会社フォーイン 取締役 特化領域調査部 部長	11社	1 開会 2 挨拶 3 講演「世界自動車産業の電動化競争の現状と電動化基幹部品のサプライチェーン」 東 尚史 氏 4 閉会

▼開催案内

令和5年度 経済産業省 カーボンニュートラルに向けた自動車部品サプライヤー事業転換支援事業

第1回 業界動向セミナー

世界自動車産業の電動化競争の現状と電動化基幹部品のサプライチェーン

開催趣旨

いわて産業振興センターでは、経済産業省の事業を活用し、県内企業の自動車電動化に向けた取組を「地域支援拠点」を設置し、支援を行っています。

本セミナーでは、電動車関係部品の特徴や最新のマーケットトレンド、技術動向のほか、新規参入事例の成功要因等の解説・分析を含め、お話をいただきます。

日 時: 令和5年12月14日(木) 13:00～14:20

場 所: 北上市産業支援センター (岩手県北上市相去町山田2番地)

参加形式: 現地参加、オンデマンド参加

参加無料

プログラム

12:40 受付開始
13:00 開会、セミナー開始
14:20 質疑応答、閉会

※閉会后、引き続き、同一会場で「第1回 実地研修」を開催します

【主な内容】

- 世界(日米欧中他)のBEV化トレンド
- BEV化に伴う新しい技術競争領域
- 車体軽量化と生産革命
- BEV化を支える様々な熱マネ技術
- ソフトウェアデファインドビークル
- 欧米エンジン系サプライヤーのBEV化対応

講 師

株式会社FOURIN 取締役 東 尚 史 氏

1972年鹿児島県生まれ。
株式会社フォーインで『世界自動車技術調査月報』の編集長などを歴任。
国内外の自動車技術トレンドや自動車関連政策などの情報を収集し、自動車技術会誌やFOURIN調査レポートなどで発信している。

主催:公益財団法人いわて産業振興センター
後援:いわて自動車関連産業集積促進協議会

申込方法は裏面

国内外自動車メーカー電動化の動向
電動化によって車や部品、ものづくりがどう変わるか
電動化により今後どのような技術が利用されるか
...など電動化に関する最新の情報を知りたい企業様はぜひご参加ください。



実地研修「IATF16949規格 基礎研修」

<開催目的>

自動車
の電動化・自動運転化に伴い、サプライヤーに要求される品質保証水準は、ハイレベルになってきており、国際標準規格や自動車産業固有の要求事項に準拠することが求められている。

このような状況下で、電動車部品の開発・製造に向けて、自動車産業品質マネジメントシステムの国際規格であるIATF16949は、重要な役割を持つものとなっている。そのため、IATF16949規格の知識習得を目的に「IATF16949規格 基礎研修」を開催した。

現地参加とオンライン参加のハイブリッド方式で開催。

<実施内容>

日時・場所	講師	参加企業数	プログラム
2023/11/14(火) 13:30～15:30 ホテルシティプラザ北上 (ライブ配信あり)	田上 裕史 氏 ブルースカイテクノロジー(株) (オートモーティブエナジーサプライ(株)OB、神奈川拠点専門家)	18社	1 開会 2 講義 田上 裕史 氏 ①自動車業界をとりまく現状 ②IATF16949とは ③IATF16949要求事項の概要 ④IATF16949認証スキーム ⑤IATF16949適用企業のメリット ⑥最新の自動車関連規格について ⑦質疑応答 3 閉会

▼開催案内

令和5年度 経済産業省 カーボンニュートラルに向けた自動車部品サプライヤー事業転換支援事業 実地研修
参加料無料

自動車産業に特化した品質マネジメントシステムに関する国際規格
「IATF16949規格 基礎研修」
受講者募集！！

開催趣旨

自動車産業は、電動化・自動化など、「100年に一度の大変革期」と言われ、サプライヤーに要求される品質水準も、レベルアップしてきており、国際標準規格や自動車産業固有の要求事項に準拠することが求められるようになっていきます。
 このような状況下において、自動車産業品質マネジメントシステムの国際規格であるIATF16949は、重要な役割を持つものとなり、自社のマネジメント・技術両面の品質を証明する大切なツールとなっています。
 今回の研修では、新たに認証を目指す方、すでに認証を取得している方に向けて、IATF認証の必要性、認証取得に向けた必要条件や要求事項のポイント、認証取得までのステップなどを分かりやすく解説します。

日時：令和5年11月14日（火）13:00～15:30
場所：ホテルシティプラザ北上（無料駐車場有。岩手県北上市川岸1丁目14-1）
対象：・IATF 16949認証取得を検討中の経営者様、担当者様
・IATF 認証済み組織の担当者様
・自動車関連製品の製造を行っているすべての企業
定員：現地参加5社、オンライン参加10社（Zoomによる配信）

プログラム

12:40 受付開始（オンライン接続は12:50から）	【研修内容】
13:00 開会、研修開始	1. 自動車業界をとりまく現状
14:20 休憩（10分間）	2. IATF16949とは
15:30 質疑応答等、閉会	3. IATF16949要求事項の概要
	4. IATF16949認証スキーム
	5. IATF16949適用企業のメリット
	6. 最新の自動車関連規格について

講師

ブルースカイテクノロジー株式会社 田上 裕史 氏
 1990年東京理科大学卒業。同年日本電気㈱入社。2008年からはオートモーティブエナジーサプライ㈱（日産自動車、NEC、NECトキン㈱の合併）において、リチウムイオン電池の品質保証業務（ISO9001、ISO/TS16949、IATF16949認証取得や顧客要求事項対応、社内外の品質監査等）に従事。ISO9001/IATF16949 内部監査員資格保有。2018年からは自動車関連技術に特化したコンサルティング会社であるブルースカイテクノロジー㈱（神奈川）に所属。リチウムイオン電池の品質に関するコンサルティング業務や品質保証に関する教育支援で実績多数。

申込方法は
お問い合わせ

主催：公益財団法人いわて産業振興センター、後援：いわて自動車関連産業振興促進協議会

第 1 回実地研修

「キラリと光る自社の技術で拓く次世代自動車部品製造」

<開催目的>

HEV関連部品等の機能、構造、材質等を学ぶ講義や自社の技術で開発可能な案件を考察する機会を提供することにより、C A S E、電動化に対応する部品、モジュール、ユニット等の試作、開発等に向けた地域サプライヤーの取組を促進することを目的に「第 1 回実地研修」を開催した。

<実施内容>

▼開催案内

令和5年度 経済産業省 カーボンニュートラルに向けた自動車部品サプライヤー事業転換支援事業

第1回 実地研修

キラリと光る自社の技術で拓く

次世代自動車部品製造

参加無料

いわて産業振興センターでは、経済産業省の事業を活用し、県内企業の自動車電動化に向けた取組を「地域支援拠点」を設置し、支援を行っています。

この度、岩手県により10月2日にリニューアルオープンされた北上分解展示場を活用して、岩手県で生産されている「新型アクア」を教材とした実地研修を開催します。

HEV関連部品等の機能、構造、材質等を学ぶ分解部品解説のほか、電動車時代を見据えた生き残り戦略や電動化の新規参入・取組事例等の講義を行います。

日 時：令和5年12月14日(木)14:40～16:30

場 所：北上市産業支援センター
(岩手県北上市相去町山田2-35)

参加形式：現地参加

プログラム

14:20 受付開始

14:40 開会 第一部【講義形式】

15:30 休憩

15:40 第二部【分解部品解説】

16:30 閉会

※ 13:00から同一会場で「業界動向セミナー」を開催します

電動車部品・ユニットにはどのような技術が必要なのか

自社の保有技術を電動車部品へどのように活かせるか

などを詳しく知りたい企業様は、ぜひご参加ください。

講 師

株式会社三幸コーポレーション
次世代自動車戦略研究所 益田 武 氏

・トヨタ自動車入社
・自動車用新エンジンや電子制御技術開発業務に従事
・社内人材教育講座の企画及び講師に従事
・現 次世代自動車戦略研究所8研究員

主催：公益財団法人いわて産業振興センター
後援：いわて自動車関連産業振興促進協議会

申込方法は後述

日時・場所	講師	参加 企業数	プログラム
2023/12/14(木) 14:40～16:30 北上市産業支援センター (自動車部品分解展示場)	益田 武 氏 (株)三幸コーポレーション 次世代自動車研究所 技監 (トヨタ自動車OB)	9社	1 開会 2 講義「EV化の課題と新たな挑戦」 益田 武 氏 3 分解部品解説 4 閉会

第2回実地研修 「SDV時代に求められる新たな技術革新と価値創造」

<開催目的>

HEV関連部品等の機能、構造、材質等を学ぶ講義や自社の技術で開発可能な案件を考察する機会を提供することにより、CASE、電動化に対応する部品、モジュール、ユニット等の試作、開発等に向けた地域サプライヤーの取組を促進することを目的に「第1回実地研修」を開催した。

<実施内容>

日時・場所	講師	参加企業数	プログラム
2024/3/1(金) 15:00～16:30 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング (オンデマンド配信あり)	森 文利 氏 (株)コムス Mobility事業部長	10社	1 開会 2 講義「電動車時代のソフトウェア開発」 森 文利 氏 3 閉会

▼開催案内

令和5年度 経済産業省 カーボンニュートラルに向けた自動車部品サプライヤー事業転換支援事業

第2回実地研修（個別）

SDV時代に求められる
新たな技術革新と価値創造

いわて産業振興センターでは、経済産業省の事業を活用し、県内企業の自動車電動化に向けた取組を「地域支援拠点」を設置し、支援を行っています。

EV化によりソフトウェアが自動車産業を根本から変える時代が本格的に到来すると言われる中、先般、開催したHEV関連部品等のハードウェアの機能、構造、材質等を学ぶ講義に加え、部品の電子制御やCASE、MaaS等の新たなニーズに対応する自動車ソフトウェアについての講義を行います。

SDV(ソフトウェア定義自動車)車と外部との間の取組を促進するためのソフトウェアを制御するソフトウェアを制御し、駆動後にも機能を維持したり性能を高めたりできる自動車

日時：令和6年3月1日（金）
15:00～16:30

場所：ホテルメトロポリタン盛岡NEWWING 4階 メトロポリタンホール東の間
(岩手県盛岡市盛岡駅前北通2-27)

参加形式：現地参加及びオンデマンド参加（録画動画の配信）
※オンデマンド参加の場合、後日、視聴に必要なアドレスを送付します

講演

「EV時代に向けた自動車ソフトウェアの技術開発と戦略（仮題）」
株式会社コムス Mobility事業部長 森 文利 氏

【主な講演内容】

- ・EV時代の自動車ソフトウェアを取り巻く環境
- ・自動車ソフトウェア技術の今後
- ・自動車ソフトウェア戦略
- ・自動車ソフトウェア技術とソフトウェア開発DXの必要性
- ・コムスの取組紹介

主催：公益財団法人いわて産業振興センター
後援：いわて自動車関連産業集積促進協議会、いわて組込み技術研究会

申込方法は動画

【1】サプライヤーハンズオン支援事業

(3) 専門家派遣

＜実施内容＞

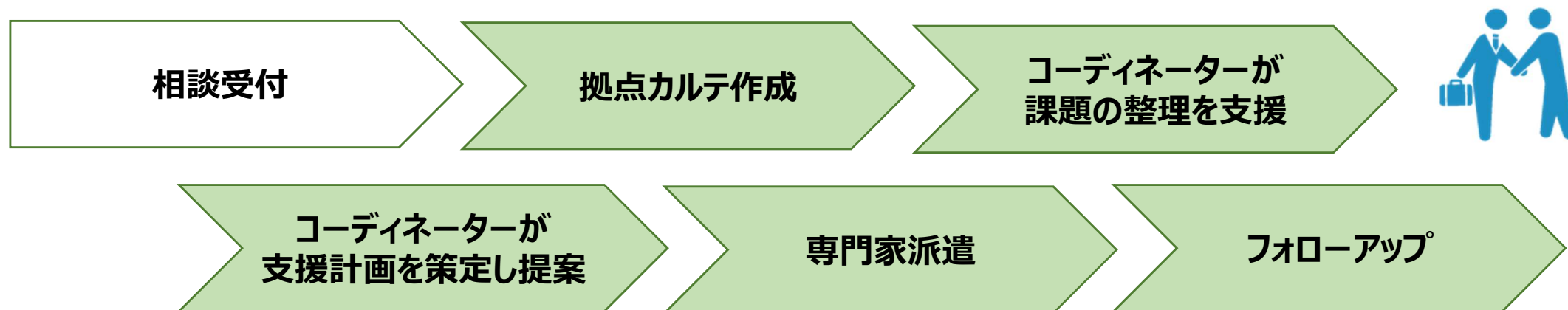
域内サプライヤーおよびサプライヤー候補企業を対象に、相談窓口等にて受け付けた相談内容に応じ、課題等を整理・解決するため、適切な専門家を派遣した。

相談窓口等で受け付けた課題等をＣＯが整理したうえで、ＣＯが専門家派遣等事務局と連携して適切な人材を選定後、ＣＯ等が、派遣先事業者に対して人選確認を行ったうえで、派遣日程調整や事務局への派遣申請を行った。

派遣後は、専門家派遣等事務局が開設したアンケートフォームで、専門家派遣の満足度や課題解決の進捗度合い・支援に関する要望を把握した。

当該専門家派遣機能は、いわて産業振興センターホームページを通じてＰＲを行ったほか、「いわて自動車関連産業集積促進協議会」、関係機関等と連携し、案内を行った。

○相談から課題解決までのスキーム（再掲）



【1】サプライヤーハンズオン支援事業

(3) 専門家派遣

セミナー・実地研修参加企業や、いわて産業振興センターのデータベースを活用し選定した企業に対しての訪問聞き取りを行い、31件の相談を受け付けた。そのうち、域内サプライヤー10社に対して、専門家派遣を行った。

企業名 (対応専門家)	主な製品・技術	相談内容	支援内容	今後の方向性
①A社 (岩手拠点 四十川 千秋)	車載部品の 自動組立装置等	量産部品製造に関するノウハウ《製造管理、品質保証（ISO）など》の習得をしたい	・課題解決のための資金獲得支援 事業再構築補助金 事業計画の策定支援。 ・補助金採択。	補助金事業計画及び事業目標達成に向けて、社内における準備と社外（客先）との情報交換等を進める。
②B社 (石巻専修大学 梅山 光広)	センシングデバイス	長期的な技術開発戦略の策定支援をしてもらいたい。	・技術開発推進をテーマにした講演会を実施。 ・技術ロードマップ策定方法を指導した。	技術開発戦略を社内で策定する。
③C社 (岩手拠点 吉田 強)	精密板金	CN/電動化についての情報が客先から入りにくい状況にあるため、電動化に向けた経営戦略策定に苦慮している。	・「世界の電動化進展状況」を説明するとともに、今後必要な取組み（世界に勝てる技術研鑽、既存受注の減少に向けた新規事業模索）を情報提供した。	自社課題の明確化をさらに進め、施策策定を行う。
④D社 (広島拠点 大江 良二 才上 宗敏 筒本 隆博)	センシングデバイス	電動車関連部品の取引拡大に取り組もうとしており、それに向けた自社技術の棚卸の支援をしてもらいたい。	ターゲットとする「Tier1」への売込みに向けて、「強みの明確化」をサポートした。	Tier1技術ニーズに対する課題解決提案を継続し、電動車関連部品の取引拡大に取り組む。 (R6年度も派遣支援継続)

(3) 専門家派遣

企業名 (対応専門家)	主な製品・技術	相談内容	支援内容	今後の方向性
⑤E社 (岩手拠点 板倉 正人)	ポンプ部品等	電動車用部品の増産に向けて、検査工程の生産性向上・自動化に取り組みたいが自社内でノウハウを有していない	検査工程の工程設計改善を支援した。	・当初課題である、検査工程の工程設計改善は完了。 ・費用対効果を検証しながら現場改善を進める。
⑥F社 (中部拠点 当麻 満男)	プレス・溶接加工	CO2排出量の可視化や削減に向けた取り組みをしたいが、工場全体としての具体的なCNの進め方がわからない。	CN活動のロードマップ策定方法を指導した。	CNロードマップ策定を進める。 (R6年度も派遣支援継続)
⑦G社 (岩手拠点 吉田 強)	表面処理加工	CN/電動化についての情報が客先から入りにくい状況にあるため、電動化に向けた経営戦略策定に苦慮している。	「車の変化とEV化の動向」を説明するとともに、自動車の変化による部品への影響とその対応の考え方（機能複合の着眼点）を情報提供した。	自社課題の明確化をさらに進め、施策策定を行う。
⑧H社 (岩手拠点 小室 健一)	プラスチック製品	・電動化進展をチャンスととらえ、取引拡大に取り組もうとしているが、どのような提案をするのが有効なのか、最近のトレンド情報が欲しい。	新規提案に向けて、欧州メーカーと国内メーカーの動向や実際の製品の周辺情報・設計要件等を情報提供した。	参入ターゲット領域の選定を継続する。 (R6年度も派遣支援継続)

(3) 専門家派遣

企業名 (対応専門家)	主な製品・技術	相談内容	支援内容	今後の方向性
⑨I社 (岩手拠点 四十川 千秋)	金属切削加工	量産部品製造に関するノウハウ習得を支援してもらいたい。	量産部品製造体制構築の第一ステップとして、①工場内の動線、②工程バランスの改善を助言した。	量産加工体制構築の取組みを継続する。 (R6年度も派遣支援継続)
⑩J社 (岩手拠点 吉田 強)	ソフトウェア開発	次世代自動車のソフトウェアに関するTier1のニーズ把握から自社でのコアソフト内製化につながる取り組みを進めたい。	今後のコアソフト内製化へ向けた戦略策定を助言した。	次世代自動車のコアソフト内製化の取組みを継続する。

（４）その他 ＜地域支援ネットワークの設置＞

＜設置目的＞

岩手県が基幹産業と位置付ける自動車産業の発展的かつ持続的支援においては、地域支援拠点のみならず、地域自治体、業界団体、金融機関、学術機関、その他支援機関等や立地する自動車メーカー・大手自動車部品サプライヤーとの連携が不可欠である。そのため関係機関のネットワークを形成するために岩手県（商工労働観光部ものづくり自動車産業振興室）が主管する「いわて自動車関連産業集積協議会」（同協議会参画機関・企業377《企業等301、行政27、支援機関26、その他（金融機関・大学等学術・研究機関）23》）と連携し、地域支援ネットワークを設置し、構成メンバーに対して、地域支援拠点の状況を共有するとともに、支援の品質向上に向けた議論を行った。

構成メンバーは「いわて自動車関連産業集積協議会」の幹事企業・団体におけるＣＮ／電動化に関連する部署の責任者から構成した。オブザーバーとして名城大学 田中教授（国内各地域の自動車産業振興施策に精通）、中小企業基盤整備機構 東北支部、経済産業省 製造産業局 自動車課、東北経済産業局 地域経済部 製造産業・情報政策課も参加した。

令和５年度は、東北自動車産業グリーンエネルギー普及協会が新しい構成メンバーとして加入した。

地域支援ネットワーク 構成メンバー

	機関・企業等名
1	岩手県
2	アイシン・ソフトウェア株式会社
3	アイシン東北株式会社
4	株式会社デンソー岩手
5	トヨタ自動車東日本株式会社
6	一般社団法人東北自動車産業グリーンエネルギー普及協会
7	トヨタ紡織東北株式会社
8	株式会社ミクニ
9	株式会社サトウ精機
10	株式会社長島製作所
11	株式会社東亜電化
12	株式会社ジェーエフピー
13	株式会社岩手銀行
14	国立大学法人岩手大学
15	公立大学法人岩手県立大学
16	地方独立行政法人岩手県工業技術センター

【1】サプライヤーハンズオン支援事業

(4) その他 <地域支援ネットワークの設置>

<第1回連絡会>

日時・場所	プログラム
2023/6/29(木) 13:00~14:30 ホテルメトロポリタン ニューウイング ライブ配信あり	1 開会 2 説明 「令和5年度地域支援拠点運営事業の概要」 公益財団法人いわて産業振興センター 小室 健一 チーフCO 3 意見交換 「カーボンニュートラルの取組や電動車関連部品への参入に 必要な動機づけとは何か」 4 その他 5 閉会

▼第1回連絡会の様子



▼R5事業概要を説明する小室チーフCO



▼第1回連絡会 参加者名簿

	所属	職	氏名
地域支援ネットワーク構成メンバー	アイシン・ソフトウェア株式会社		
	トヨタ自動車東日本株式会社		
	一般社団法人東北自動車産業グリーンエネルギー普及協会委託先 トヨタ自動車東日本株式会社		
	トヨタ紡織東北株式会社		
	株式会社ミクニ		
	株式会社サトウ精機		
	株式会社ジェーエフピー		
	株式会社岩手銀行		
	国立大学法人岩手大学		
	地方独立行政法人岩手県工業技術センター		
オブザーバー	岩手県		
	経済産業省		
	東北経済産業局		
ゲスト	学校法人名城大学		
	株式会社みなかみSOUL		
CO	公益財団法人いわて産業振興センター		
事務局	公益財団法人いわて産業振興センター		

【1】サプライヤーハンズオン支援事業

(4) その他 <地域支援ネットワークの設置>

<第2回連絡会>

日時・場所	プログラム
2024/2/7(木) 10:00～11:40 ホテルメトロポリタン ニューウイング ライブ配信あり	1 開会 2 説明 「令和5年度岩手地域支援拠点の活動状況及び 令和6年度岩手地域支援拠点の活動計画（案）」 公益財団法人いわて産業振興センター 小室 健一 チーフCO 3 意見交換 4 その他 5 閉会

▼第2回連絡会の様子



▼R6活動計画を説明する小室チーフCO



▼第2回連絡会 参加者名簿

	所属	職	氏名
地域支援ネットワーク構成メンバー	アイシン・ソフトウェア株式会社		
	アイシン東北株式会社		
	トヨタ自動車東日本株式会社		
	一般社団法人東北自動車産業グリーンエネルギー普及協会		
	株式会社ミクニ		
	株式会社社長島製作所		
	株式会社東亜電化		
	株式会社岩手銀行		
	国立大学法人岩手大学		
	公立大学法人岩手県立大学		
オブザーバー	地方独立行政法人岩手県工業技術センター		
	岩手県		
	経済産業省		
	東北経済産業局		
ゲストCO	独立行政法人中小企業基盤整備機構		
	株式会社ティムネット		
事務局	公益財団法人いわて産業振興センター		
	公益財団法人いわて産業振興センター		

【2】サプライヤー参入促進支援事業

(1) ニーズ発信型 参入・事業転換促進支援事業 「ニーズ発信マッチング会」

<実施概要>

電動車への域内サプライヤーやサプライヤー候補企業の参入拡大・新規参入に向け、今後要求が増える部品・ユニットなどを中心に、これらを生産している大手自動車部品サプライヤーと県内企業とのマッチングを図り、大手サプライヤーと域内サプライヤー等との具体的なマッチングや共同研究・共同開発の創出、大手サプライヤーの新たなサプライチェーンの創出等を目指す取組みを実施した。

今年度は、ニーズ発信マッチング会を1回開催し、大手サプライヤー2社の「CASE関連の車載ソフトウェア開発ニーズ」に対して、地域サプライヤーのべ11社をマッチングした。

■日 時：令和5年9月21日(木)

■場 所：アイーナ（いわて県民情報交流センター）

発信ニーズ	マッチング企業
A社（愛知県） ①駆動系システムの制御ソフトウェア開発 ②車体系システムの制御ソフトウェア開発	県内ソフトウェア開発企業4社
B社（神奈川県） ①自動車用制御ECUの組込みソフト開発及び評価	県内ソフトウェア開発企業7社

【2】サプライヤー参入促進支援事業

(2) シーズ育成型 参入・事業転換促進支援事業「シーズ育成プレゼンテーション会」

＜実施概要＞

地域の高等教育機関が保有している電動車での活用が期待されるシーズをブラッシュアップし、大手自動車サプライヤー等にPRする機会を設け、製品化・事業化するための活動を支援した。

岩手県立大学の2シーズに対し、県外サプライヤー1社をマッチングした。

■日 時：令和5年9月22日(金)

■場 所：岩手県立大学 いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター

発信シーズ	マッチング企業	今後の支援方針
深層学習を活用したドライブシュミレーション、拡散モデルを活用した運転シーンのデータ生成 (岩手県立大学 間所教授)	A社（神奈川県）	定期的な情報交換を行い、連携を模索する。
ドライビングシュミレータを活用したドライバーへの生体信号センシング (岩手県立大学 山邊准教授)	A社（神奈川県）	定期的な情報交換を行い、連携を模索する。

3. 令和5年度の活動総括

(1) 令和5年度の実践における課題

<相談窓口・専門家派遣>

コーディネーターの増員や支援企業の選定と動機付け、ヒアリング等が有効に機能した活動となった。一方で、専門家派遣回数が1回で完了する支援も見られ、これは新規参入や事業転換・再構築にはつながりづらいテーマであることから、令和6年度は、企業の戦略策定や競争的資金の獲得へと発展するテーマの発掘にも取り組む必要がある。

<セミナー・実地研修>

セミナー・実地研修では、現地参加が少なく、オンデマンドやWebによる参加傾向が強かった。令和6年度は、より多くのサプライヤーが、カーボンニュートラルに伴う電動化などのCASEに関する情報を得ることを可能とするための『情報発信方法の拡大』に取り組む。

また、開催後アンケートにおいて、「具体的に知りたい」「深く知りたい」「難しい」「何をしてもよくわからない」「情報が不足している」「評価方法がわからない」などの感想・意見が一定数見られたため、サプライヤーが、CASEに対応していくための『より具体的な情報・テーマの提供』が必要である、といった課題が明確となった。

セミナー・研修名	現地参加	オンデマンド参加
CNセミナー①	6社・8名	－
CNセミナー②	12社・18名	10社・13名
CNセミナー③	1社・3名	8社・11名
業界動向セミナー	10社・15名	1社・3名
IATF16949研修	2社・4名	16社・38名
実地研修①	9社・14名	－
実地研修②	6社・9名	4社・4名

<ニーズ発信型 参入・事業転換促進支援、シーズ育成型 参入・事業転換促進支援>

ニーズ発信型支援において、令和5年度は、大手車載ソフトウェアサプライヤーと中堅・中小サプライヤーとのマッチングを契機とし、この大手サプライヤーを講師とした実地研修へと発展した。これは令和6年度に継続させ、令和7年度頃からの企業連携の試作開発、その後の中堅・中小サプライヤーの事業転換・再構築へとつなげるべく取組みを推進する必要がある。また令和4年度に実施し、令和5年度は企業都合により中断している、大手サプライヤーとの取組みについても再開させ、上記取組みの横展開を図る。

シーズ育成型支援においては、研究シーズの情報発信に関して課題を残したことから、中堅・中小サプライヤー、大手サプライヤーに対し、大学等のシーズ発信力を強化する必要がある。

<地域支援ネットワークの設置>

事業運営にあたり、年に2回の連絡会において情報の共有と議論を行っているが、構成員からより詳細な情報提供をいただき、事業運営に反映させるためにも、会議体のみに依らないネットワークの強化が必要である。

3. 令和5年度の活動総括

(2) 令和6年度の活動計画

令和6年度の取組みは、令和5年度に明らかとなった課題を補完するべく、セミナー・実地研修の開催方法やテーマ選定について、情報発信方法の拡大や具体的な情報・テーマを提供することにより強化する。

相談窓口・専門家派遣支援においては、テーマ（企業）発掘に取り組むため、コーディネーター、専門家の増員による強化（深化）を図る。

ニーズ発信型支援においては、令和5年度の取組みを継続・発展させるとともに、シーズ育成型支援においては、シーズ発信力を強化する。

さらに、地域支援ネットワークと連携し事業を推進する。

	サプライヤー の状況	サプライヤーの 目指す姿	拠点の活動方針	R5年度活動実績	R6年度活動計画
短期	【ステージ0】 現状維持（CN/電動化の影響を理解していない、何をしたいかわからない）	・CN/電動化による自社への影響を理解し、変革の必要性を認識 （他分野から自動車産業への参入に挑戦）	・CN/電動化による経営環境変化への危機意識の共有 ・拠点の活動情報を提供 ・支援制度の活用促進	・支援企業の発掘、診断 ・窓口相談、専門家派遣 ・セミナー（CN）3回 ・セミナー（業界動向）1回 ・地域支援ネットワークの運営	・支援企業の発掘、診断 ・窓口相談、専門家派遣 ・セミナー（業界動向・CN・CASE等） ※リアル・Web・動画等 ・地域支援ネットワークの運営
	【ステージ1】 経営戦略の策定	・自社の課題を整理し、課題解決に向けた戦略を策定	・戦略策定を支援		
中期	【ステージ2】 戦略実現に向けた基盤構築	・基礎技術の高度化 ・ユニット受注への挑戦 ・新たな製品、技術の開発 ・電動車関連試作への挑戦	・DX支援事業との連携 ・ユニット受注を目指した体制構築支援 ・開発機能を産官学連携や企業間連携で支援（コア企業の発掘） ・支援制度の活用促進	・支援企業の発掘、診断 ・窓口相談、専門家派遣 ・実地研修（部品学習）3回 ・ニーズ発信型支援 1回 ・シーズ育成型支援 1回	・支援企業の発掘、診断 ・窓口相談、専門家派遣 ・実地研修（部品学習） ・実地研修（具体的テーマ設定） ・ニーズ発信型支援 ・シーズ育成型支援
長期	【ステージ3】 提案力の強化	・電動車関連ビジネスへの参入挑戦 ・次世代自動車関連ビジネスへ参入挑戦	・ターゲットとする市場の拡大支援	・窓口相談、専門家派遣 ・ニーズ発信型支援 1回 ・シーズ育成型支援 1回	・窓口相談、専門家派遣 ・ニーズ発信型支援⇒BtoB ・シーズ育成型支援⇒試作⇒プレゼン等 ・実地研修（具体的テーマ設定）
	【ステージ4】 社会実装	・電動車関連ビジネスへの参入、電動車部品の量産 ・次世代自動車関連ビジネスへ参入	・支援制度の活用促進		

3. 令和5年度の活動総括

(3) 総括

岩手拠点では、令和4年度に引き続き、個別相談対応による域内サプライヤーの現状把握とセミナー等によるC N / 電動化の潮流情報発信に主軸を置き、サプライヤーの意識変革を促す取組を中心に実施した。

地域支援拠点の取組により、域内サプライヤーがC N / 電動化による経営環境の変化について理解を深めることができたのは成果の一つである。域内サプライヤーがミカタプロジェクトと岩手拠点の活動を知って、自発的にC N の相談や電動車部品製造への参入方法を聞きに来るケースも増えている。専門家派遣において、「車載ソフトウェアTier1への参入」、「ASSYメーカーとの技術討議＋戦略の構築」、「工場での具体的なC N 活動のスタート」などの成果も現れつつある。

一方で、令和5年度中に事業再構築・事業転換に向けて、企業運営を変える行動をとったサプライヤーは限定的であった。この理由として、

「1 今までの仕事の取り方でまだ仕事が取れる。」

「2 過去新しいやり方でスタートした創業者は高齢化し、現状の情報をハンドリングできず。後継者は今までの仕事のやり方の改善の経験しかない。」

「3 そもそも、目の前の課題の解決に取り組むことだけで経営が回っているので目先の変化だけ対応すればなんとかなる。」

など、今までのやり方の成功体験が、サプライヤーの新たな挑戦への積極性を阻害していると推察できる。企業訪問やセミナー等で接触したサプライヤー数が167社であるのに対し、個別相談に至ったサプライヤーが30社、専門家派遣を実施したサプライヤーが10社のみであったことから電動化に対応に関する本気度が依然高くないことがうかがえる。専門家派遣の支援テーマのほとんどは、基本的に目先の製品拡販の延長でしかない。これはこれで今後の信頼関係構築に対して有効であると考えるが、CASEの変化速度の速さに対応しきれない懸念は大きい。

しかしながら、域内サプライヤーの全てが、開発機能を利用する必要があるわけではない。開発機能の運営は高コストであるので採算性を考えた場合、限定的な生産能力に特化する企業も必要であり、その支援も重要である。

そのため、岩手拠点では、最新の業界動向を把握しつつ、支援先である域内サプライヤー等の目指す姿をサプライヤーとともに常に更新しながら、各種支援を継続したい。令和6年度事業においては、本事業における支援領域が「電動化⇒CASE」に拡大されることもあり、電動化の危機感だけでなく、「夢を持てる」目標・事業の在り方を提案していき、企業が喜んで事業転換に進める環境作りを支援していく。